3　伝票の記入

最近の全商簿記３級の第２問は、伝票の記入が出題されています。

出題内容としては、取引が与えられ、３伝票のうち該当する伝票の記入が求められています。ただし、伝票Noや摘要欄まで記入する必要がありますので、注意して下さい。

（１）伝票のひな型

第19章では簡略版の伝票で学習しましたが、正式な伝票のひな型は以下です。なお、入金伝票は赤色、出金伝票は青色、振替伝票は黒色で印刷している場合があります。

①　入金伝票

入　金　伝　票

年　月　日　　　　No

科　目		入金先	殿

摘　要	金　額
合　計	

②　出金伝票

出　金　伝　票

年　月　日　　　　No

科　目		支払先	殿

摘　要	金　額
合　計	

③　振替伝票

振　替　伝　票

年　月　日

No ______

勘定科目	借　方	勘定科目	貸　方
合　計		合　計	
摘要			

（２）伝票の記入方法

①　取引日を「日付」欄（各伝票名の下）に記入します。

②　問題に与えられた伝票番号を「No」欄に記入します。

③　問題に与えられた取引から、該当する勘定科目を「科目」欄または「勘定科目」欄に記入します。入金伝票と出金伝票では相手勘定科目のみを「科目」欄に記入します。なお、入金伝票では相手勘定科目は貸方科目、出金伝票では相手勘定科目は借方科目となります。

④　入金伝票では取引先を「入金先」欄に、出金伝票では取引先を「支払先」欄に記入します。

⑤　「摘要」欄には取引内容がわかるように小書きを行います。なお、小書きには決まったルールはありませんので、問題文を使って取引内容を簡潔に記入して下さい。

⑥　「合計」欄にそれぞれの合計額を記入して下さい。

（３）解き方

まず、下書用紙に通常の仕訳を書いて下さい。なぜなら、いきなり答案用紙に記入すると、間違えた場合に手間がかかるからです。

次に、その仕訳が「現金の増加」を含む取引であれば答案用紙の入金伝票に記入し、「現金の減少」を含む取引であれば答案用紙の出金伝票に記入し、「現金の増減がない」取引であれば答案用紙の振替伝票に記入して下さい。

試験対策問題３－１　**５月16日　東京商店から貸付金に対する利息15,000円を現金で受け取った。（伝票番号　No77）**

実際に答案用紙に記入する前に、下書用紙に通常の仕訳を書いて下さい。本問では以下となります。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
現　　　　金	**15,000**	**受　取　利　息**	**15,000**

現金が増加しますので、入金伝票に起票します。入金伝票への記入は以下となります。

入　金　伝　票

×年 **5** 月 **16** 日　　No **77**

科　目	**受　取　利　息**	入金先	**東　京　商　店** 殿

摘　　要	金　　額
貸付金の利息の受け取り	**15000**
合　　計	**15000**

試験対策問題３－２　**6月17日　千葉郵便局で郵便切手2,000円を購入し、代金は現金で支払った。（伝票番号　No88）**

通常の仕訳で示すと以下となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
通　信　費	**2,000**	**現　金**	**2,000**

現金が減少しますので、出金伝票に起票します。出金伝票への記入は以下となります。

出　金　伝　票

×年 **6** 月 **17** 日　　No **88**

科目	**通　信　費**	支払先	**千葉郵便局**　殿

摘　要	金　額
郵便切手購入	**2000**
合　計	**2000**

試験対策問題３－３　**７月18日　商品代金として京都商店あてに振り出した約束手形＃９　200,000円が本日満期となり、当座預金から支払った。（伝票番号　No99）**

通常の仕訳で示すと以下となります。

借方科目	金　額	貸方科目	金　額
支　払　手　形	**200,000**	**当　座　預　金**	**200,000**

現金の増減がありませんので、振替伝票に起票します。振替伝票への記入は以下となります。

振　替　伝　票

×年 **7** 月 **18** 日　　No **99**

勘定科目	借　方							勘定科目	貸　方						
支 払 手 形		**2**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**当 座 預 金**		**2**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
合　計		**2**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	合　計		**2**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
摘要	**京都商店あて約束手形＃９の期日支払い**														

４　語句選択

最近の全商簿記３級では、主に第４問で語句選択が出題されています。語句選択は、文章の空欄にあてはまる語句を語群の中から選ぶ問題です。対策をしっかりすれば得点を獲得できる問題ですので、以下の例題をもとに復習しましょう。

試験対策問題４－１　**企業の一会計期間の収益と費用の内容を示した報告書を損益計算書という。企業がこれを作成するのは、一会計期間の（　　）を明らかにするためである。**

・解答　経営成績

試験対策問題４－２　**企業では、資産・負債・純資産の内容を示した貸借対照表を作成することによって、簿記の目的の一つである企業の一定時点における（　　）を明らかにすることができる。**

・解答　財政状態

試験対策問題４－３　**企業の経営活動は継続的に営まれているので、財政状態や経営成績を明らかにするためには、経営活動を一定の期間に区切る必要がある。この区切られた期間を（　　）という。**

・解答　会計期間

試験対策問題４－４　**簿記では、現金や備品などの財貨や、売掛金や貸付金などの債権を（　　）という。**

・解答　資産

試験対策問題４－５　簿記では、支払手形や買掛金のように、将来、仕入先などに一定の金額を支払わなければならない義務を（　　）という。

・解答　負債

試験対策問題４－６　仕訳を記入する帳簿を仕訳帳といい、仕訳帳から総勘定元帳へ転記を行う。この仕訳帳と総勘定元帳は、すべての取引が記入される重要な帳簿であり、この２つの帳簿を（　　）という。

・解答　主要簿

試験対策問題４－７　簿記上の取引は、すべて主要簿に記帳される。この主要簿には、すべての取引を発生順に記入し、経営活動の歴史的な記録をする（　　）と、すべての勘定口座を集めた総勘定元帳がある。

・解答　仕訳帳

試験対策問題４－８　帳簿には、すべての取引を記録する仕訳帳や総勘定元帳のほかに、現金出納帳や商品有高帳のように、特定の取引や特定の勘定についてその明細を記入する（　　）がある。

・解答　補助簿

試験対策問題４－９　総勘定元帳の売掛金勘定だけでは、得意先別の売掛金の増減や残高を知ることはできない。そこで、得意先別に分けられた売掛金元帳を用いることがある。このように、売掛金勘定の記録を補う売掛金元帳のような帳簿を（　　）という。

・解答　補助簿

試験対策問題４－10　**総勘定元帳のすべての勘定の記録を集計すると、借方に記入した金額の合計と貸方に記入した金額の合計は、必ず等しくなる。これは（　　）によるものである。**

・解答　貸借平均の原理

試験対策問題４－11　**合計試算表は、仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しく行われたかを確かめるために作成する表であり、合計試算表の借方欄と貸方欄は必ず一致する。これは（　　）によるものである。**

・解答　貸借平均の原理

試験対策問題４－12　**簿記では、一定期間ごとに総勘定元帳の各勘定口座の記録を計算・整理し、諸帳簿を締め切り、損益計算書や貸借対照表を作成する。この一連の手続きを（　　）という。**

・解答　決算

試験対策問題４－13　**総勘定元帳のすべての勘定の借方合計金額と貸方合計金額は、貸借平均の原理によって必ず一致する。この原理を利用して、仕訳帳から総勘定元帳への転記が、正しく行われているかと確かめるために作成する表を（　　）という。**

・解答　試算表

試験対策問題４－14　**総勘定元帳への転記が正しく行われているかどうかを確かめるために、総勘定元帳の各勘定の借方合計金額と貸方合計金額の差額を集めて（　　）を作成する。この表は、精算表の作成や決算の基礎的な資料としても用いられる。**

・解答　残高試算表
・解説　「各勘定の借方合計金額と貸方合計金額の差額」は各勘定の残高となります。その残高を集めた表は「残高試算表」です。

試験対策問題４－15　**仕訳帳から総勘定元帳への転記が、正しく行われているかどうかを確かめるために、総勘定元帳の各勘定の借方合計金額と貸方合計金額を集めて作成する表を（　　）という。**

・解答　合計試算表

試験対策問題４－16　**企業では、決算の概要を知りたい場合に、残高試算表から損益計算書と貸借対照表を作成する手続きを、一つにまとめた表を作成することがある。この一覧表を（　　）という。**

・解答　精算表

試験対策問題４－17　**企業では、決算において総勘定元帳を締め切る前に、一会計期間の経営成績や財政状態を知るため、残高試算表から損益計算書と貸借対照表を作成する手続きを、一つにまとめた（　　）を作成することがある。**

・解答　精算表

試験対策問題４－18　**売掛金勘定に対する貸倒引当金勘定や資本金勘定に対する引出金勘定のように、ある勘定の金額を修正する役割をもつ勘定を（　　）という。**

・解答　評価勘定

試験対策問題４－19　**商品に関する取引を３分法で記帳している場合、決算整理後の仕入勘定の残高は（　　）を意味している。**

・解答　売上原価

試験対策問題４－20　**手形に関する明細を記録する補助簿のうち、商品代金の決済などで生じた手形債権の発生・消滅を記入する帳簿を（　　）という。**

・解答　受取手形記入帳

試験対策問題４－21　**個人企業の決算において、損益勘定の貸方に残高が生じた場合には純利益を意味し、（　　）勘定の貸方に振り替える。**

・解答　資本金

5　勘定分析

　最近の全商簿記３級では、主に第４問で勘定分析が出題されています。勘定分析は、与えられた情報から、解答を推定する問題です。以下の例題をもとに学習しましょう。

試験対策問題５－１　**下記の資本金勘定と［資料］によって、関東商店（個人商店）の①期間中の収益総額、②期首の負債総額の金額を算定しなさい。**

資　本　金

12/31	次期繰越	2,000,000	1/1	前期繰越	(　　　　)
			12/31	損　　益	(　　　　)
		2,000,000			2,000,000

［資料］

１．期間中の費用総額：800,000円

２．当期純利益：300,000円

３．期首の資産総額：3,200,000円

・解答　①　1,100,000円　　　②　1,500,000円

・解説

①　期間中の収益総額

「収益総額－費用総額＝当期純利益」ですので、収益総額は「費用総額＋当期純利益」で算定されます。

費用総額800,000＋当期純利益300,000＝1,100,000

② 期首の負債総額

問題文に与えられている「資本金」勘定の貸方「12/31 損益」の金額は、当期純利益300,000円です。仕訳を行うと以下となります。

借方科目	金額	貸方科目	金額
損益	**300,000**	**資本金**	**300,000**

「資本金」勘定の貸借差額により、貸方の「1/1 前期繰越」の金額は1,700,000円と算定できます。「資本金」勘定の空欄を記入すると以下となります。

資本金

12/31	次期繰越	2,000,000	1/1	前期繰越	(∴1,700,000)
			12/31	損益	(300,000)
		2,000,000			2,000,000

「資本金」勘定の貸方「1/1 前期繰越」の金額1,700,000円は、期首の資本金の金額です。期首の繰越資産表（または、貸借対照表）では「期首の資産総額＝期首の負債総額＋期首の資本金」ですので、負債総額は、「期首の資産総額－期首の資本金」で算定されます。

期首の資産総額3,200,000－期首の資本金1,700,000＝1,500,000

以下のような、繰越試算表（または、貸借対照表）を下書用紙に書いて、算定してもよいでしょう。

期首の繰越試算表

資産総額	3,200,000	負債総額	∴1,500,000
		資本金	1,700,000
	2,000,000		2,000,000

試験対策問題５－２　**下記の［資料］によって、関西商店（個人商店）の①期間中の費用総額、②期首の資産総額の金額を算定しなさい。**

［資料］

1．期首の負債総額：4,500,000円

2．期末の資産及び負債

現　　金	**800,000円**	**当座預金**	**3,400,000円**	**商　　品**	**900,000円**
備　　品	**700,000円**	**買 掛 金**	**1,200,000円**	**借 入 金**	**2,000,000円**

3．期間中の収益総額：5,000,000円

4．当期純利益：400,000円

・解答　①　4,600,000円　　　②　6,700,000円

・解説

①　期間中の費用総額

「収益総額－費用総額＝当期純利益」ですので、費用総額は「収益総額－当期純利益」で算定されます。

収益総額5,000,000－当期純利益400,000＝4,600,000

②　期首の資産総額

まず、「資産総額＝負債総額＋純資産総額」ですので、期末の純資産総額は、「資産総額－負債総額」により2,600,000円と算定されます。

資産総額(現金800,000＋当座預金3,400,000＋商品900,000＋備品700,000)
－負債総額(買掛金1,200,000＋借入金2,000,000)＝2,600,000

次に、この期末の純資産総額のうち、当期純利益が400,000円ですので、差額で資本金の金額が2,200,000円と算定されます。なお、特に指示がありませんので、期末の資本金と期首の資本金は同額と考えます。

期末の純資産総額2,600,000－当期純利益400,000＝2,200,000

期首の繰越資産表（または、貸借対照表）では「期首の資産総額＝期首の負債総額＋期首の資本金」ですので、資産総額は、「期首の負債総額＋期首の資本金」で算定されます。

期首の負債総額4,500,000＋期首の資本金2,200,000＝6,700,000

以下のような、繰越試算表（または、貸借対照表）を下書用紙に書いて、算定してもよいでしょう。

期首の繰越試算表

資産総額	∴6,700,000	負債総額	4,500,000
		資 本 金	2,200,000
	6,700,000		6,700,000